

久松山山系の景観整備検討方針（素案）

鳥取市は景観計画の中で、久松山山系を景観形成重点区域として定め、歴史・文化と自然とが調和した景観づくりを進めるため、歴史的建造物、史跡、文化財等と一体となった自然景観の保全を図ることを目標としている。

久松山の麓に広がる街なみから鳥取の歴史、城下町の趣を感じることでできる景観形成に取り組むことが必要である。

景観は訪れる人のためにはなく、そこに暮らす人の生活環境であり、誰しも良好な景観、良好な環境を望んでいる。どのような景観が望まれているのか、住んでいる人の考えを把握した上で、取り組むことが必要である。

○久松山山系景観形成重点区域の景観の特徴

この区域は、久松山を背景にした武士町を中心とする区域である。

景観の特徴は、四季の久松山の眺望と山系の自然の姿と現在に伝わる当時の町割りである。古地図に残る町割りの姿がそのまま現在の道路に重なる。建物の姿は変わっても町割り、道路の様子は当時の姿で残されている。

県庁の近辺には駐車場が設置されている。山手通沿いの家屋は門、塀が設えられた建物も見受けられ、武家町の趣を感じさせる景観も部分的ではあるが残されている。また、市内では数少ない武家屋敷である旧岡崎邸が残されている。

この地域からは久松山を仰ぎ見ることができ、ランドマークとなっている。

○景観形成の基本方針（案）

「城下町を感じるとっとりの景観まちづくり」

○景観形成に関連しうる施策

◎サイン整備

訪れる人を案内・誘導するためのサイン設置

◎景観の支障要因の除去

電線の地中化

歩道の改良（美装化等）

◎武家町の印象を伝える外構の保全・整備

生垣による空間、景観整備

門・塀による空間、景観整備

◎武家町の印象を伝える家屋の保存

保存・活用に向けた改修

（倒壊防止のための緊急対策を含む）

○地区別の状況と景観形成の検討方針

①-1 お堀端周辺の現状

現在、城跡の周辺は、官公庁や学校などの建物と民家が立ち並んでいる。民家は戸建てが主であるが、造り、材質、デザイン等に統一されたものはなく現代的な街なみである。

①-2 お堀端周辺の景観形成の検討方針

・城跡を正面に望む位置である。周辺は洋風家屋、コンクリート造りの家屋も見受けられる。建物の修景を求めるのは困難な状況である。

(検討すべき施策)

◎武家町の印象を伝える外構の保全・整備

・鳥取市の市内観光の中心となる地域である。来訪者の山手通周辺観光の行動起点と位置づけられる。

(検討すべき施策)

◎サイン整備

◎景観の支障要因の除去

②-1 知事公舎周辺の現状

県庁の建物と保育園、山手通りをはさんで知事公舎等が建ち並ぶ区域で、城跡と武家町を結ぶエントランスである。

保育園の建物は白壁と黒瓦で仕上げられ和を感じさせる雰囲気である。東側の住宅は山の斜面に沿って建てられ庭から山の木々につながる景観である。

②-2 知事公舎周辺の景観形成の検討方針

久松山への眺望を確保する効果が、お堀端周辺に次いで大きい地区であると考えられる。

(検討すべき施策)

◎景観の支障要因の除去

③-1 栗谷周辺の現状

栗谷川は久松山系の谷筋に沿って流れる清流である。道路に沿って川が流れているため道路の拡幅ができず、道幅は狭い。

県庁に近いことから、駐車場が非常に多い。住宅の庭、建物の跡地が駐車場として利用されているため、家並みの連続性が失われている場所が見受けられ

る。

一方西側の区域では武家屋敷の趣を感じさせる門、塀のある家も見受けられる。

③-2 栗谷周辺の景観形成の検討方針

栗谷川のせせらぎを含む自然環境の保全を図りつつ、家並みの連続性が駐車場で遮られていることについて現状の把握等を行っていく必要がある。

(検討すべき施策)

- ◎景観の支障要因の除去
- ◎サイン整備

④-1 山手通周辺の現状

久松山山系の麓に位置しており通の山側には寺院が多く見受けられる。建ち並んでいる建物に武家町の面影を残している建物は少ない。栗谷町周辺に比べると数は少なくなるものの駐車場利用が見受けられる。

馬場町から上町周辺では門や塀を設置している建物も見受けられ、城下町の趣を感じることができる。

④-2 山手通周辺の景観形成の検討方針

この地域が武家町であったことを情報として伝えるとともに、武家町をイメージできる仕掛けを提供することにより、効果的に景観が保全できる可能性がある。

(検討すべき施策)

- ◎サイン整備
- ◎武家町の印象を伝える外構の保全・整備
- ◎武家町の印象を伝える家屋の保全・整備

